

平成30年 棚田学会大会シンポジウム

# 棚田と芸術

2018・7・21(土)

会場：明治大学 駿河台キャンパス リバティタワー 15階 1153教室

東京都千代田区神田駿河台 1-1

棚田は食料生産や環境保全の場としてだけでなく、さまざまな芸術活動の場となり、また芸術の対象となってきた。棚田は多くの人々に創作活動のインスピレーションを与え、棚田と各種芸術・芸能が融合することにより、棚田そのもの、あるいは棚田に関連した芸術、芸能の双方がより美しく、人々に親しまれ発展してきた。

このような背景のもとに、棚田と芸術がもたらす農業者や地域への効果、都市住民や外来者への効果、今後の可能性や展望などについて、実際に棚田と芸術というステージで活躍中の方やメディアの方を交え、事例報告とディスカッションを通して議論を深めていきたい。

## ●プログラム

- 12:40～ 棚田学会総会、学会賞授賞式・受賞記念講演
- 14:00～ シンポジウム開会挨拶
- 14:10～ 趣旨説明、事例報告
- 16:10～ パネルディスカッション
- 17:10 閉会
- 17:40～ 懇親会（アカデミーコモン1階）

参加費：一般 1,000 円 学生 300 円（棚田学会会員無料）

主催：棚田学会 後援：農林水産省 協賛：損保ジャパン日本興亜環境財団



## ●事例報告1 棚田を舞台に

上野 裕治 (うえの・ゆうじ)

1951年 熊本市生まれ。元長岡造形大学教授、ランドスケープデザイナー。カカシ作家。棚田学会会員。棚田と里山の生物多様性及び景観保全、および棚田保全に都市住民がどのように関わるかといったことが現在の研究テーマ。長岡市比礼地区にて毎年カカシ・プロジェクトを実施中。2017年「案山子の詩」新潟日報事業社より発刊。



## ●事例報告2 棚田を撮る

中條 均紀 (なかじょう・まさのり)

1952年 新潟県三条市生まれ。写真家、アトリエshinla 代表。日本写真協会会員、新潟県美術展覧会役員。写真集：古志の里Ⅰ、古志の里Ⅱ、山古志ふたたび、古志の里春夏秋冬。新潟県を中心に棚田を含む農村景観の写真を精力的に撮影。近年はドローンを使用した写真にも挑戦。写真教室、コンテスト審査員、講演等の活動を行っている。



## ●事例報告3 棚田を歌う

田中 卓二 (たなか・たくじ)

1965年 大阪生まれ。むらおこしシンガー。棚田学会会員、NPO 法人棚田ネットワーク会員。現在、JICA 農村開発部勤務(農水省より出向中)。高校時代より、作詞作曲を開始。100曲以上の自作曲がある。鹿児島で青年団長を経験。鹿児島の農村を歌った「からいも畑に陽が落ちて」、棚田の美しさを歌った「棚田にて」などCDもリリース。著書「食育のまち紀の川市」は、和歌山県紀の川市で携わったまちづくりについて書かれたもの。



## ●事例報告4 棚田の美しさとは

小谷 あゆみ (こたに・あゆみ)

1970年 兵庫県生まれ、高知県育ち。石川テレビ放送を経て、現在フリーアナウンサー・農業ジャーナリスト。ベランダ菜園を通して農とつながる持続可能な暮らし、都市と農村のフェアな関係をめざして取材・講演活動。訪ねた市町村は100カ所。NHK「ハートネットTV 介護百人一首」司会 14年目。農福連携など包括的な農の価値を発信し続ける。農林水産省「食料・農業・農村政策審議会」部会臨時委員。日本農業新聞にコラム連載中。



〈申し込み用紙〉 各希望の欄にレ印をご記入下さい。

- シンポジウムに参加します。
- 懇親会に参加します。(会費：一般 4,000 円、学生 1,500 円)
- 棚田学会に入会を希望します。(年会費：一般 4,000 円、学生 2,000 円)

お名前 \_\_\_\_\_ 所属 \_\_\_\_\_  
電話 \_\_\_\_\_ E-Mail \_\_\_\_\_

今後、棚田学会の催事案内をご希望の方はE-Mail アドレスをご記入下さい。  
申込先：Fax. 042-385-1180 E-Mail :tanadagakkai@gmail.com